光受寺通信

NO.182
R6・4・1
発行元　光受寺

時々「子供の頃の思い出は」と聞かれることがあるが、不思議なくらいに覚えてはいない。近くには保育園や幼稚園はなくていきなり小学校だったが、かろうじて思い出せるのは3、4年生以降のことだろうか。家は貧しくて塾など通ったこともなく、勉強していた記憶もほとんどない。ただ毎日、毎日遊んでばかりいたような気がする。成績もほとんど気にしたこともなくのほほんとした子供時代だった。

ただそれでも自慢できたことはあった。足が速かったことと相撲が強かったこと、そして魚釣りが得意で、よく働いたこと。ポンプでくみ上げた何杯ものバケツの水を五右衛門風呂まで運んでの風呂焚き、時には薪でご飯を炊き、手洗いで洗濯をしたり、掃除をしたり、小遣いがなかったからウサギの飼育や伝書バトを飼って小遣いを稼いだりもしていた。

そんな私の子供時代でしたが、いまでも奇妙に思ことは、父親から一度だけ生意気な口きいてビンタを張られたことがあったが、そのこと以外は叱られたという記憶がまったくない。末っ子で甘やされていたのかもしれないが、いまだに私の不思議となっている。

はたしてそれが幸せだったのかどうか分からないが、今の自分は確かにその両親をはじめ兄弟、親族、そして数知れぬ多くの人たち、事、物の関わりのご縁の中で生かされてきたことに間違いはない。またこのご縁のひとつひとつの、何ひとつでも欠けていても、今の自分はここにいることはない。

そう思う時、私はすべてのご縁がただ事ではなかったと深く思わされてくるのです。　南無阿弥陀仏。

永代経勤まる。

三月二十日（水）春分の日　午前十時～午後二時

この日は冷たい雨の一日となってしまいましたが、多くのご門徒の皆様にご参拝いただきました。

この寺をお預かりしている住職として、とてもありがたい思いでいっぱいでありました。ただ坊守が永代経の直前に肩を骨折し、皆様に十分なおもてなしもできず、大変申し訳なく思っております。その分お手伝いの皆様にもご負担をおかけすることになってしまいました。

私はこの直前の出来事についうろたえてしまいました。何をどうしてよいのかもわからぬまま、気づいたことから必死になって体を動かし準備を整えようとしていました。

医者には若院が連れて行ってくれましたのでその分は助かりましたが、心身ともに疲れ切って、お勤めをする頃には、その疲れは最高潮に達していました。それでも皆様のお支えによって、お勤めできましたことに対して心よりの御礼と感謝を申し上げます。

「つりびなめぐり」もう一つの楽しみ。

ここ数年、つりびな実行委員会の主催する笑福亭知丸さんをお招きして落語をお楽しみいただくための場所として光受寺をお貸ししてきましたが、本年はそれに加えて「ブルースターズ」のバンド演奏会も行われました。

いずれも大変好評で、定員40名を超える人たちが来てくださいました。

特に「ブルースターズ」の演奏会は大いに盛り上がり、リクエスト曲も出るほどでした。

「異邦人」に「サザエさん」「川の流れのように」まで、皆さん演奏に合わせて大きな声で歌われ、楽しんでいらっしゃいました。

光受寺の「享保びな」にも関心が集まっていました。（今年は京都の専門店へ修復に出します。）

門徒会総会・研修会開かる。

令和六年三月二十三日（土）十四時～

毎年三月と九月の二回、岐阜教区第十一組（十四ケ寺）の各寺代表が集まって、門徒会総会・研修会が開かれる。本年度は役員会改選の年でもあり、新役員のご門徒の皆さんが一堂に会されました。光受寺からは、責任役員の水野日出夫さんに出席いただきました。（総代の三輪豊さんは都合により欠席）組門徒会員証伝達式には組全体の水野日出夫さんが代表として会員証を受け取っていただきました。

総会では事業報告・会計報告・新役員などの紹介があり、新年度へ向けての新たなスタートとなりました。門徒会の活動がよりいっそう活発なものとなり、御同朋、御同行の歩みの原動力となっていくことが願われています。

本年度の事業計画の一つとして、**「夏期講座」**が開催されます。講師は未定ですが、決まりましたら光受寺通信などでご報告いたします。会場は朝日大学近くの**「仁成寺」**においてですが、開始時間が午前6時からとなっております。早朝からで申し訳ございませんが、ぜひ多くの方に来ていただけたらと思っています。

研修会ではNPO法人レスキュウーストックヤード代表理事　栗田暢之講師による「令和六年能登半島大地震の実態」ということで、現在の現地の状況を詳しくお話しいただきました。当たり前の日常ができない現実の厳しさつらさは、想像を絶するものがあるようです。水やトイレの問題は深刻なのだそうですが、それ以上に今後問題になってくるのは、メンタル面のケアーだといわれています。家族を亡くされた方々の苦しみはもちろんですが、私たちには気づけないような微妙な問題が多くあるようです。私たちには何もできない虚しさを感じるばかりですが、一刻も早い日常が戻ってきますようにと願うばかりです。

今月の掲示板

挙足一歩（こそくいっぽ）

藤原鉄乗

藤原鉄乗といえば、暁烏　敏・高光大船と並んで加賀の三羽烏と言われた人である。

「挙足一歩」は梵鐘に書き込まれた藤原氏の言葉であるという。仏法をご縁に新たな一歩を踏み出し歩き始めるという意味が込められているという。煩悩に眼さえられている私に「お前それでよいのか」と私に問いかけられての目覚めの一歩なのだろう。

春の七草から

旬の話題ではないのですが、草むしりをしていてふと気になった草が春の七草「ごぎょう」だったことから話題にしました。（左　春の七草）

1．芹　2．薺（なずな）　3．御形　4．繁縷（はこべ）
5．仏の座　6．菘　7．蘿蔔

七草の名前はわかっても、漢字で読むのは難しいですね。私に読めるのは芹（せり）と仏の座ぐらいです。

またこの中で、実際食べたことがあるのは芹と．菘（すずな）＝かぶ　蘿蔔（すずしろ）＝だいこん　なんです。

ほとけの座

ごぎょう

なずな

はこべ

「私たちは雑草ではありません」

ちなみに「なずな」はぺんぺん草ともいわれ、高血圧や肝臓、「ごぎょう」は咳止め、「はこべ」は腹痛、「ほとけの座」は整腸などに効果があるといわれています。

もちろん「芹」も「かぶ」も「だいこん」も薬草としての働きがあるのです。人間の都合で勝手に決めつけているだけで、地球上には無駄なものはないのです。

お知らせ

光受寺学習会…4月20日（土）午後2時～3時半
『歎異抄』第8章

お寺サロン……4月18日（木）午後1時半～2時半
お気軽にご参加ください。　廣専寺にて